

論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	循環病態科学領域循環病態内科学教育研究分野 野坂匡史
指導教授氏名	富田 泰史
論文審査担当者	主 査 青木 昌彦 副 査 佐藤 温 副 査 加藤 博之
<p>(論文題目)</p> <p>Clinical outcomes of acute myocardial infarction patients with a history of malignant tumor</p> <p>(悪性腫瘍既往歴を有する急性心筋梗塞患者の臨床的特徴と予後に関する研究)</p>	
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>悪性腫瘍は心血管疾患の発症に密接に関連することが報告されているが、悪性腫瘍 (MT) の既往歴を有する急性心筋梗塞 (AMI) 患者の臨床転帰を検討した報告は少ない。そこで本研究では MT の既往歴を有する AMI 患者の臨床的特徴と転帰について検討した。</p> <p>方法としては、2007 年 1 月から 2016 年 12 月までの間に、発症から 24 時間以内に弘前大学医学部附属病院に入院し、経皮的冠動脈インターベンション (PCI) 治療がなされた AMI 患者連続 1,295 例を対象とした。臨床症状、心電図変化、および心筋トロポニンを含む心筋バイオマーカーの上昇など、心筋梗塞の診断ガイドラインに従って AMI の診断を行った。MT の既往歴のある患者を MT 群、MT の既往歴のない患者を non-MT 群に分類し、MT 群ならびに non-MT 群の 2 群間において AMI の臨床的特徴と転帰を比較検討した。</p> <p>その結果、AMI 患者 1,295 例の中で MT 群は 50 例 (3.9%) であった。MT 群は non-MT 群に比べて有意に高齢であったが、性別、冠危険因子 (喫煙歴を除く)、心筋梗塞ならびに PCI 既往歴、入院時の Killip 分類、責任冠動脈、多枝病変の有無については 2 群間で有意差を認めなかった。MT 群では non-MT 群に比べて冠動脈ステントの留置をせずに治療した患者が多かったが、PCI 後の TIMI 分類には差はなく、退院時の抗血栓療法にも差は認めなかった。追跡期間中に 263 名の患者が死亡し、MT 群では non-MT 群に比べて全死亡率が有意に高かった。MT 群では観察期間中に 19 例が死亡し、そのうち 9 例は MT が原因の死亡であった。両群間で心臓死に差を認めなかったが、MT 群では non-MT 群に比べて急性非代償性心不全 (ADHF) による再入院の頻度が有意に高かった。</p> <p>本研究は、PCI 治療がなされた MT 既往を有する AMI 患者は、MT 既往歴のない患者に比べて臨床転帰が不良であり、ADHF による再入院の頻度が高かったことを明らかにし、その学術的・臨床的意義は高くよって学位授与に値する。</p>	
公表雑誌等名	In Vivo 2020 ; 34: 3589-3595